©Ko Yamada & Breaker Project

記憶の報道

なるへそ新聞内容充実

思い出はニュースだ

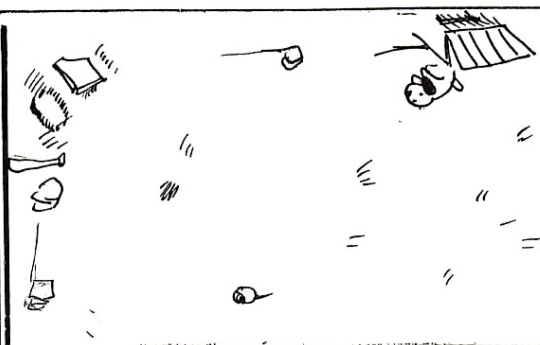
西成なるへそ新聞社(大阪市西成区)は三月末同紙の創刊を発表した。西成区で芸術活動を展開するブレーカー・プロジェクトとの共同企画によって生まれたこの独創的な新聞は、地域に住む人々の記憶を頼りに「西成の今昔」を新聞紙上に街の風景として再現して行く。一つ一つの記事は紙面上にある家や区画の様に扱われ、街の変化同様新しい記事を入れる際には古い記事を切り取って取り壊し、少しずつ時間をかけて記事が差し変わって行くというユニークな形式だ。人に話を聴き、手作りで遺していく「手書き」の新聞。個人的な思い出話を、それが何年前のものでも新聞記事として現在の事のように扱うことで新旧の家々やそこに住む人々の記憶が入れ子の様に混在するリアルな都市の姿をこの新聞は体現すると、同紙紀葉長山田亘氏は語る。同社は一般参加の記者を公募中。参加する記者達の取材の過程そのものが人から人への歴史の橋渡しともなっていく。

なるへそ記者

「西成なるへそ新聞」は新規の記者を広く募集している。忘れる事の出来ない大きな戦争体験ですら徐々に個人のディティールを失って単なる「歴史の一ページ」となって行く現在、この街に住む人々の生きて来た記憶が気づかない内に消えていってしまう前に、出来るだけ多くの方々から「君らしの体験談」を聞き出していただきたいと同社広報の村田仁氏は語る。時空間を費く街の移り変わりの姿を一緒に作っていく「なるへそ記者」には報道腕章とメモ帳が支給される。年間を通しての参加から、数回や一回限りでの参加も可能だ。

柔らかいからソフトボール

太子一丁目の西村少年の近頃の楽しみの一つは、近所の公園で毎日の様に催される紙芝居だ。黄金バットや鞍馬天狗などを見たあと串カツにも電車賃にも出来たはずの五円で型又キに挑戦するも苦戦その後、藤枝梅安ばりの針を使った必殺技で成功率も上々だ。もう一つの楽しみは、西成の少年達の甲子園ともいわれている異人墓地でのソフトボールだ。地面に描いたベースと各自のくふうで作られた個性あふれるグローブと、魚屋の野口くんだ。野口くんはソフトボールの腕前もすばらしいのだが、仲間のために美しい白球も提供してくれている。皆は汗をほとばしらせて、魂を躍動させ球を追っているのだ。しかし、連日の酷使に耐えきれず、少しずつ柔らかくなり、真のソフトボールとなってしまった白球は、まだまだ引退させてもらえそうにない。



よろずさがえる

一緑丸が良いお湯一

萬盛湯二代目、前田征義さん(17)は、お父さんが体調を悪くされてから、お母さん、お姉さんを助ける為、異人墓地での友人達との大好きなソフトボールの時間を番台に座る時間に当てる家族想いの少年だ。

無料の新聞配布箱を設置

「なるへそ新聞ボックス」

なるへそ新聞社(大阪市西成区)はこのほど直営の新聞配布設備「なるへそ新聞ボックス」を設置する。山王及び太子を中心に店舗前や商店街の空きスペース等十五カ所程が予定されている。無料配布で自由になるへそ新聞を持ち帰る事が出来る。

鉄砲の輪

今年も恒例の盆踊り大会が萩之茶屋の三角公園で行われた。この日のために組まれた櫓は、高さ約五メートルを超える。櫓の上には、「鉄砲節」でおなじみの鉄砲光三郎(てっぽうみつさぶろう)が音頭取りとして立ち、河内音頭の踊りの輪が櫓を中心に三重、四重に作られた。光三郎は昨年の正月には、新世界「新花月」の舞台にも立っている。近くに住む高校生の角田昇さん(17)によると、人出は年々増えており、今年は特に若い女性連れも多く見られるという。屋台も数多く並び、祭としての雰囲気を盛り上げ、堺といった遠方からも多くの人出を集める要因となっているようだ。

西成くん

作 ムラタツジ

発行:西成なるへそ新聞社
ブレーカープロジェクト実行委員会
発行人:山田亘
編集:ブレーカープロジェクト実行委員会・村田仁
図案:村田仁

メンズショップ スミタ 萩之茶屋本通商店街
広告主 求ム
皆様の浴場 萬盛湯 山王2-4-10
Kioku 手芸館 たんす お家のタンスに眠っている編み物を眠って下さい。山王1-11-5(元・鈴木タンス店)
全酒類 食品販売 BEER WINE BRANDY SAKE 柳本商店 山王1丁目12番4号
大阪市現代芸術創造事業 ex・pots 2011-2013
Breaker Project 山王・飛田・太子・新世界 地域密着型アートプロジェクト http://breakerproject.net